



令和3年度 東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

北区教育ビジョン 2020 の人間尊重の精神を基調とし、心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

令和3年12月 特別号

校長 阿久津 光生

〒114-0004

東京都北区堀船 2-23-20

Tel 03-3911-8817

<3組 校外学習に行ってきました>

3組は11月19日(金)に校外学習に行ってきました。緊急事態宣言等で9月から延期が続き、この日ようやく実現することができました。

晴天の中、九段の靖国神社遊就館～上野広小路の下町風俗資料館～上野公園～サンシャイン水族館を巡りました。たくさん見学できて、とても勉強になり、楽しい一日を過ごすことができました。



<1年生 校外学習 TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) で英語を学んできました>

東京都教育委員会と株式会社 TOKYO GLOBAL GATEWAY が提供する、TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) は、お台場のタイム24のビル内にあります。グローバル化が進む中、将来のため英語を学ぶには最適な学習環境です。1年生は落ち着いた行動を見せ、行き帰りの電車のマナーもとても良くて感心しました。全てのアトラクションに一生懸命取り組む姿も素晴らしかったです。



<少年の主張校内発表会・挨拶ポスター・標語の表彰式を行いました>

本年度10月に予定しておりました少年の主張発表大会・挨拶ポスター・標語の表彰式は、コロナ禍の中で中止となりました。しかし地域の皆様のご協力により、冊子や表彰状・記念品などをご用意いただき、11月26日(金)に校内発表会及びあいさつ・ポスター標語の表彰等を実施することができました。ご来賓・地域の皆様・保護者の皆様にご覧いただけなかったことは残念でしたが、生徒達は堂々と自分の主張を発表し、表彰を受ける姿もとても立派でした。北区青少年堀船地区委員会・昭和町地区委員会の皆さま、両地区連合町会の皆さまをはじめ、関係していただきました多くの皆さまに心から感謝申し上げます。なお、保護者の皆様には、当日撮影したものを編集してYouTubeにて配信いたしました。



<少年の主張発表者>

- ・「百年後の世界」1年生 荒山くん ・「学ぶ人になろう」1年生 須田さん
- ・「見た目による偏見と校則」2年生 佐藤さん ・「食品ロスについて」2年生 石井さん
- ・「人種差別」3年生 原さん ・「広く大きな社会へ」3年生 ニシユラトさん

<三校連 あいさつポスター・標語入賞者>

【ポスター部門】

- 優秀賞 1年 荒山くん 2年 小泉くん 安井くん
 優良賞 1年 牟田さん 前橋くん 須田さん 松田さん 山本さん
 2年 渡邊さん

【標語部門】

- 優秀賞 1年 清水さん 2年 石井さん 3年 真砂くん
 優良賞 1年 荒山くん 1年 上村さん 2年 舟山くん
 2年 大塚くん 3年 稲垣さん 3年 張くん



<表彰>

バスケットボール男子の部 北区秋季大会 第3位

障害者週間ポスター標語 採用 1年 田口さん 北区連合学芸会英語スピーチ発表 優秀賞 3年 佐藤(樹)さん

渋沢栄一の死



斎場に向かう栄一 渋沢史料館所蔵

1931（昭和6）年11月11日、栄一は飛鳥山の自邸で家族に看取られながら、91歳の生涯を終えました。直腸がんを患い、前月に開腹手術を受けましたが、最期は安らかに息を引き取ったそうです。

同年の11月15日に、栄一の葬儀が東京・青山斎場で行われました。栄一との別れを惜しむ市民が大勢駆けつけ、葬列を見送りました。左の写真は現在の北区の本郷通り一里塚付近の様子です。

写真を見ても分かるように、棺とともに何十台もの自動車が列をなし、飛鳥山を出発しました。門を出ると、滝野川町民、各小学校の児童・生徒らが整列して葬列を迎えました。さらに青山斎場までの沿道には、栄一が関係した日本女子大学校、東京女学館などの生徒がびっしりと並び渋沢栄一の死を悼みました。こうした場面からも栄一が多くの人たちから愛されていたことがわかります。葬列は斎場から谷中の寛永寺墓地へ向かい、近親者の焼香の後、埋葬されました。お墓は、生涯に渡って栄一が主君として慕ってきた徳川慶喜の墓の近くにあります。

【養育院巣鴨分院生徒の作文 ～栄一の死～】

復刻版 『東京市養育院月報』第23巻（昭和6年1月～12月）不二出版より引用
（分かりやすいように現代かなづかいに修正しました）

○我らの悲しみ 實補一 浅見きみ子（15歳）

ああ、なんという悲しさだろう、なんだかこの世の中がまっくらになったような気がします。11月11日午前1時50分、この言葉を聞くと私は、胸がどきっといたします。ちょうど針で心臓でもつかれるような気がします。ああ、もう院長様は、この世の人ではないのだと思うと悲しさは一層加わってきます。院長さんが、養育院に関係なさってから今日まで五十余年間も私達のために日夜ご心労下さいましたことを思ふと、何と云ってお礼を申し、ご恩返しをしてよいかわからない程有難く思ひます。私達は院長さんのお亡くなりになった後は悲しく淋しく暮らして行かなければならないのです。院長さんの御写真を拝みますと、何となくなつかしく在りし日のことどもが次から次へと心の中に浮かんでなつかしくなってきます。私達は毎朝・毎晩この御写真の前に座って冥福を祈りいたしております。私達は院長さんにさんざんお世話なつたご恩返しにお亡くなりになった日を永久に忘れないよう心にとめ立派な人となるように努力していきたいと思っております。

○亡くなられた院長さん 尋六 山田新次郎（十六歳）

日夜我々がお祈りしていた甲斐もなく我々が尊敬してお慕っていた澁澤院長には十一月十一日午前一時五十分九十二歳のご高齢をもって飛鳥山のお屋敷でこの世をさられました。院長さんは我々を子のようにかわいがってくださり、松平定信公のご命日である毎月十三日にはこの院へおいでになり、身の上のお話や我々の世の中に出たときに役立つお話しをしてくださりました。それも今年の六月十三日がおわりでありました。我々は又お目にかかる事が出来ることを心待ちにしていたが、ついに亡くなられてしまったので、残念に思っています。これは僕一人の悲しみではなく、院全体の悲しみであります。院長さんが九十歳になられた時、私も皆さんも共に一つの年をとりましたが、私の一つは、九十分の一で、皆さんの一つは、十幾分の一であるから割合は皆さんの方が大きいので、よってその時間から見れば同じでも割合の大きい皆さんは、よく勉強しなくてはならないとおっしゃっていました。僕は早く立派な人となって、万分の一なりご恩に報いたいと思って一生懸命勉強していましたが、今は亡き院長さんとなられてしまいました。しかし、院長さんのお志にそむかぬよう立派な人になって地下の院長さんのご恩に報ひようと思っております。

令和2年6月号より始めて令和3年12月特別号までの23回、渋沢栄一について学校だよりに掲載させていただきました。今回の特別号をもって最終号とさせていただきます。1年半に渡りご愛読いただきまして誠にありがとうございました。